STROKE LAB / CLINICAL NOTE

CADL｜目的・条件・結果

正規の検査法と用具で実施した結果を転記する、独自の臨床記録補助票です。
正式な検査問題・図版・項目別採点表は収録していません。

対象者ID：_____　実施者：_____

実施日：_____　発症日：_____

本人が望むやり取り／今回調べたい生活場面

実施条件｜聞こえ・視野・姿勢・麻痺・疲労・道具への慣れ

使用版：_____　全検査／短縮版／その他：_____

開始・終了：_____　休憩・分割：_____

正規用紙から転記｜素点と予測得点を区別する

得点：_____　満点／尺度：_____　レベル：_____

素点 ／ 予測得点 ／ その他：_____

換算・判定に使用した手引書・頁：_____

未実施・中止・規定外の条件と、その理由

分類名はコミュニケーションの実用性を示すものです。独居・服薬・外出などの
可否は、本人に必要な実場面の評価と合わせて検討します。

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

CADL｜やり取りを記録する

本人が伝えようとしたこと、使った方法、援助の前後を分けて残します。
以下は独自の観察欄です。項目ごとの点数は正規の採点基準に従います。

対象者ID：_____　実施日：_____

課題番号／場面	最初の反応・伝達内容	再刺激の内容と、その後

記録する手段：発話／書字／指差し／身振り／描画／その他
確認する過程：相手に働きかける → 情報を伝える → 理解を確かめる → 修正する

本人から出た工夫｜聞き返し・別の手段・自己修正など

追加支援を試した反応｜標準条件の得点とは分ける

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

CADL｜家族と生活場面を照合

検査室でできたことと、普段できていることを、一つの場面で比べます。
本票はCADL家族質問紙の複製でも、標準化された質問紙でもありません。

対象者ID：_____　家族・関係：_____

具体的な場面／日付：_____

1｜本人は何を伝えたかったか／理解したかったか

2｜実際に使った方法と、相手に伝わった内容

3｜相手の援助｜誰が、何を、どのタイミングで行ったか

検査との違い	家族と確認したこと
相手・話す速さ	
道具・文字・実物	
機会・疲労・慣れ	

「本人が伝えた」「相手が推測した」「相手が代行した」を分けて記録します。
機会がなかった場合は、できなかったと扱わず「機会なし」と残します。

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

CADL｜生活目標と再評価

本人に必要なやり取りを選び、支援方法と実際の成功を並べます。
例：写真を用いて、自分で飲み物を選び、店員に注文する。

対象者ID：_____　支援開始日：_____

目標｜いつ・誰と・何を伝える／理解するか

支援｜本人が使う方法と、相手が行う援助

日付／相手・場面	伝わった回数／機会	援助・確認・伝え直し

生活記録はCADLの追加得点ではありません。成功の定義を先に決めます。
例：希望した品物を本人が示し、相手が確認して本人の同意が得られた。

次回確認日：_____　条件の変更：_____

検査の変化：_____ 生活での変化：_____
援助が減ったか／別の相手にも使えたか／本人の希望に合っているか

参照：千葉テストセンターCADL案内／綿森ほか（1987）／畑添ほか（2020）
STROKE LAB 2026.10.27｜正規検査と併用する独自様式